



5 中間評価(7月) 中間評価を 語り合いの場に 第2回学校関係者評価委員会の開催

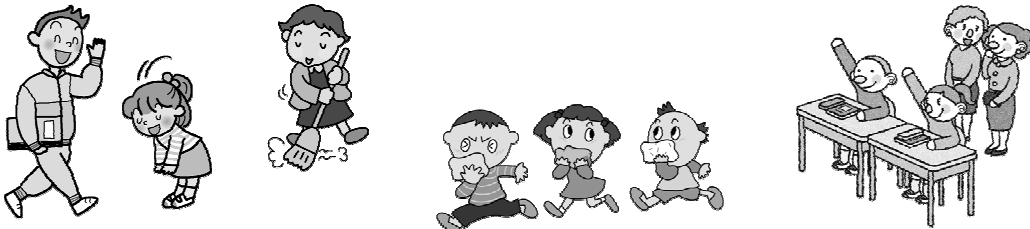
中間評価は、学校と関係者評価委員とで、年度当初に設定した取組の方向や具体策を、実際の子どもの姿等に照らして、学校の取組状況を確認したり、見直したりすることを目的に行います。年度の途中で教職員全員で学校自己評価を行い、第2回学校関係者評価委員会で語り合いの場を設定します。学校の自己評価に対して、学校関係者が「納得できる」という基準で評価していただきます。

みんなで 語り合おう、子どもの姿、私たちの取組

年度の途中の学校運営、教育活動の振り返りになります。年度当初に設定した方向が適切かどうかの確認を行います。

- ① 年度途中に、子どもの姿、取組の進捗状況を確認し、学校自己評価を行います。子どもや保護者への外部アンケート、教職員へのアンケートなどを活用するのもいいでしょう。 資料P46～P52
- ② 評価計画（重点目標、評価項目、具体的目標、具体的方策）をより適切なものへ、見直したり、修正したりします。
- ③ 改善点がはっきりしたら、改善すべきところを改善して、教育活動に取り組みましょう。

そして、自己評価の結果をまとめ、第2回学校関係者評価委員会の資料を作成します。



第2回学校関係者評価委員会を 楽しい語り合いの場にしよう

学校関係者評価委員にとっては、評価活動の計画の見直しや確認の機会になります。学校を理解してもらい、協力してもらい、学校と保護者・地域をつなぐパートナーになってもらうために、気軽に語り合える場を工夫しましょう。それぞれの学校が、保護者や地域とどうつながって行くのが望ましいのか考えてみましょう。以下、会の持ち方の参考にしてください。

- ① 場の雰囲気を和やかに話しやすく聞きやすい関係づくりを促すアイスブレイクを取り入れる。
- ② 教職員全員が参加できる時間と場を工夫し、全職員が参加する。
- ③ 人数が多いと意見が出にくいので、評価項目ごとのグループに分かれて協議する。
- ④ 子どもの姿や学校の取組状況を映像で見せ、意見交換をする。
など、いろいろと工夫をしてみましょう。

5 中間評価（7月）

実践例

教職員による中間の学校自己評価を行います。例えば、プロジェクト組織で行うことによっても組織力もさらに高まります。

「学校の組織的な教育活動に中間評価を活かす」

中間評価を1学期前半が終わった8月に教職員で行います。2学期制の本校においては、夏季休業までの年度の前半の振り返りということになります。

学校教育目標の実現に向けて、本校では、やる気プロジェクト、元気プロジェクト、笑顔プロジェクト、安心安全プロジェクト、開かれた学校作りプロジェクトの5つのプロジェクトで、教育活動や分掌事務を担っています。

年度当初には、この各プロジェクトで、それぞれが担う分野の教育活動の検討や計画を練ります。各プロジェクトの横のつながり確かめながら、教育活動の内容や時期が重複することがないように調整し、職員会議で共通理解を図り、全職員が学校教育目標に向かって教育活動を行っています。教師一人一人が行う活動が、学校教育目標とのつながりを意識したものになります。学校教育目標実現のための、P(プラン)とD(ドゥー)が、プロジェクトでの企画・立案・検討→職員会議での検討・共通理解→学年学級・各分掌事務での取組という組織的な形で行われます。

そこで、中間評価もこのプロジェクトを中心に行うことにしています。児童や保護者の評価も大切ですが、学校での組織的な取組を重視するために教職員自らの内部評価を中心に取り組んでいます。

組織での年度当初の教育計画の立案、1学期の教育活動、学年・学校経営等について、教職員で成果と課題を明らかにします。アンケートの集計結果を受けて、プロジェクトごとに取組の内容や方策について振り返ります。

それを受けて、夏季休業以降、おもに2学期の取組の改善、全体での共通理解・修正を行い、2学期後半の教育活動への意欲を高め、実際に取り組むこととなります。

中間評価を教職員が行うことで、教職員の意欲が高まり、組織的な取組の改善ができると考えています。